

変更前		変更後		変更理由
添設建 1-4 表 火災区域の構造毎の耐火時間 (4/6)				
火災区域	耐火構造物	材質	厚さ	耐火時間
A5	耐火構造物	区画境界壁		3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	屋根			1時間耐火
	床			1時間耐火
	区画境界壁			1時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
	区画境界壁			1時間耐火
II	耐火構造物	区画境界壁		3時間耐火
	外壁			1時間耐火
	区画境界壁			1時間耐火
	屋根			1時間耐火
	床			1時間耐火
	区画境界壁			1時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
K1	耐火構造物	区画境界壁		3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
K2	耐火構造物	区画境界壁		3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
K3	耐火構造物	区画境界壁		3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	外壁			3時間耐火
	区画境界壁			3時間耐火
	屋根			3時間耐火
	床			3時間耐火

1031

1031

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前	変更後	変更理由
<p>(3) 判定基準</p> <p>(3)-1 敷地内の火災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火災源と対象建物①～⑧との間に影響を遮る障壁がある場合は、火災の影響が及ばないものとする。</li> <li>・ 危険物と建物との最短距離を離隔距離として評価する。</li> <li>・ 評価温度T(C)と許容温度を比較し、評価温度&lt;許容温度であることを確認する。</li> <li>・ 許容温度は、以下のとおりとする。</li> </ul> <p>壁・屋根 (コンクリート) : 200℃ (出典: 建築火災のメカニズムと火災安全設計)</p> <p>壁・屋根 (ALC) : 400℃ (出典: 建築学便覧Ⅱ構造)</p> <p>壁 (サイディング*) ( ): 325℃ (出典: 建築火災のメカニズムと火災安全設計(鋼材の強度低下率が1である範囲の上限温度))・・・許容温度については補足資料参照</p> <p>*サイディングは熱伝導に優れた鉄鋼材で構成されていることから、外側( )と内側の( )は均一に昇温すること、壁面温度の評価式には建築物の面積あたりの熱容量C<sub>0</sub>を使用していることから、( )と( )の合計からの壁単位面積当たりの質量100kg/m<sup>2</sup>を加熱対象として適用した。</p> <p>鉄筋、シャッタ( )、屋根 ( ) : 450℃ (出典: 建築火災のメカニズムと火災安全設計(自重(長期荷重)に対して変形が認められない温度(許容鋼材温度))・・・許容温度については補足資料参照)</p> <p>Exp. J ( ) : 700℃ (出典: ステンレス協会 HP)</p> <p>※ Exp. Jの止水シートについては、閉じ込め性能を維持することを確認した。添付説明書一建1-付録3を参照のこと。</p> <p>(3)-2 敷地外の火災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地外のタンクローリーの火災は、敷地内の火災と同様に評価し判定する。</li> <li>・ 当社敷地の東側に隣接するニュークリア・デベロップメント株式会社の火災源(危険物屋外タンク貯蔵所)に最も近い当社加工施設(建物)は、事業許可のとおりに第1産業物処理所(申請対象外)であり、火災源との距離は109mである。</li> <li>・ 本申請範囲の建物と敷地外の火災源の距離は109m以上であり、外壁温度が許容温度になる危険距離が109mより小さいことを確認する。</li> </ul>	<p>(3) 判定基準</p> <p>(3)-1 敷地内の火災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火災源と対象建物①～⑧との間に影響を遮る障壁がある場合は、火災の影響が及ばないものとする。</li> <li>・ 危険物と建物との最短距離を離隔距離として評価する。</li> <li>・ 評価温度T(C)と許容温度を比較し、評価温度&lt;許容温度であることを確認する。</li> <li>・ 許容温度は、以下のとおりとする。</li> </ul> <p>壁・屋根 (コンクリート) : 200℃ (出典: 建築火災のメカニズムと火災安全設計)</p> <p>壁・屋根 (ALC) : 400℃ (出典: 建築学便覧Ⅱ構造)</p> <p>壁 (サイディング*) ( ): 325℃ (出典: 建築火災のメカニズムと火災安全設計(鋼材の強度低下率が1である範囲の上限温度))・・・許容温度については補足資料参照</p> <p>*サイディングは熱伝導に優れた鉄鋼材で構成されていることから、外側( )と内側の( )は均一に昇温すること、壁面温度の評価式には建築物の面積あたりの熱容量C<sub>0</sub>を使用していることから、( )と( )の合計からの壁単位面積当たりの質量100kg/m<sup>2</sup>を加熱対象として適用した。</p> <p>鉄筋、シャッタ( )、屋根 ( ) : 450℃ (出典: 建築火災のメカニズムと火災安全設計(自重(長期荷重)に対して変形が認められない温度(許容鋼材温度))・・・許容温度については補足資料参照)</p> <p>Exp. J ( ) : 700℃ (出典: ステンレス協会 HP)</p> <p>※ Exp. Jの止水シートについては、閉じ込め性能を維持することを確認した。添付説明書一建1-付録3を参照のこと。</p> <p>(3)-2 敷地外の火災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地外のタンクローリーの火災は、敷地内の火災と同様に評価し判定する。</li> <li>・ 当社敷地の東側に隣接するニュークリア・デベロップメント株式会社の火災源(危険物屋外タンク貯蔵所)に最も近い当社加工施設(建物)は、事業許可のとおりに第1産業物処理所(申請対象外)であり、火災源との距離は109mである。</li> <li>・ 本申請範囲の建物と敷地外の火災源の距離は109m以上であり、外壁温度が許容温度になる危険距離が109mより小さいことを確認する。</li> </ul>	<p>記載の適正化</p>

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前	変更後	変更理由
<p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <p>③ ALC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALCの許容温度は、強度を維持できる400℃(出典)とした。</li> <li>なお、ALCとは、高温高圧蒸気養生された軽集気泡コンクリートをいう。</li> </ul> <p>出典) 日本建築学会「建築学便覧Ⅱ構造」(昭和52年12月15日発行)</p> <p>④ ALC+コンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALCとコンクリートを組み合わせた壁については、保守的にコンクリートを考慮せず、許容温度をALCと同じ400℃とした。</li> </ul> <p>⑤ 石膏ボード(転換工場耐火壁)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石膏ボードの許容温度は、内部の結晶水を維持できる150℃(出典)とした。</li> </ul> <p>出典) 日本建築学会「建築学便覧Ⅱ構造」(昭和52年12月15日発行)及び石膏ボード工業会IP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業許可で転換工場に耐火壁を設置するとしていた箇所には、石膏ボードを設置するが、それが困難な箇所については、部分的に[ ]の鋼板[ ]を施工する。この鋼板の許容温度は325℃(出典)とした。</li> </ul> <p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <p>⑥ 鉄筋/シャッタ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋、シャッタについては、[ ]厚みのステンレス鋼(許容温度:700℃)と比較して、許容温度が低い鋼板[ ](厚み)を許容した。鉄筋、シャッタは、自重以外の外力を受けなかったが鋼板の自重(長期荷重)に対して変形が認められない150℃(出典)を許容温度とした。</li> </ul> <p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <p>⑦ エキスパンションジョイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパンションジョイントについては、外側の追設カバー(ステンレス鋼: [ ]厚み)を評価対象とし、変形が認められない700℃(出典)を許容温度とした。</li> </ul> <p>出典) ステンレス協会 IP</p> <p>⑧ 屋根</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の材料である[ ]は、自重に対して変形が認められない150℃(出典)を許容温度とした。</li> </ul> <p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の材料であるコンクリートは、①と同様に200℃を許容温度とした。</li> <li>屋根の材料であるALCは、②と同様に400℃を許容温度とした。</li> </ul>	<p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <p>③ ALC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALCの許容温度は、強度を維持できる400℃(出典)とした。</li> <li>なお、ALCとは、高温高圧蒸気養生された軽集気泡コンクリートをいう。</li> </ul> <p>出典) 日本建築学会「建築学便覧Ⅱ構造」(昭和52年12月15日発行)</p> <p>④ ALC+コンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALCとコンクリートを組み合わせた壁については、保守的にコンクリートを考慮せず、許容温度をALCと同じ400℃とした。</li> </ul> <p>⑤ 石膏ボード(転換工場耐火壁)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石膏ボードの許容温度は、内部の結晶水を維持できる150℃(出典)とした。</li> </ul> <p>出典) 日本建築学会「建築学便覧Ⅱ構造」(昭和52年12月15日発行)及び石膏ボード工業会IP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業許可で転換工場に耐火壁を設置するとしていた箇所には、石膏ボードを設置するが、それが困難な箇所については、部分的に[ ]の鋼板[ ]を設置する。この鋼板の許容温度は325℃(出典)とした。</li> </ul> <p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <p>⑥ 鉄筋/シャッタ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋、シャッタについては、[ ]厚みのステンレス鋼(許容温度:700℃)と比較して、許容温度が低い鋼板[ ](厚み)を許容した。鉄筋、シャッタは、自重以外の外力を受けなかったが鋼板の自重(長期荷重)に対して変形が認められない150℃(出典)を許容温度とした。</li> </ul> <p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <p>⑦ エキスパンションジョイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパンションジョイントについては、外側の追設カバー(ステンレス鋼: [ ]厚み)を評価対象とし、変形が認められない700℃(出典)を許容温度とした。</li> </ul> <p>出典) ステンレス協会 IP</p> <p>⑧ 屋根</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の材料である[ ]は、自重に対して変形が認められない150℃(出典)を許容温度とした。</li> </ul> <p>出典) 財団法人 日本建築センター「建築火災のメカニズムと火災安全設計」(平成19年12月25日発行)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の材料であるコンクリートは、①と同様に200℃を許容温度とした。</li> <li>屋根の材料であるALCは、②と同様に400℃を許容温度とした。</li> </ul>	<p>記載の適正化</p>

2208

2208

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。



変更前	変更後	変更理由																																																																																																																								
<p>添説建9-16表 各航空機落下による対象建築物外側騒音・シヤック（<input type="text"/>厚み）の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>① 民間一 離着陸</th> <th>② 有視界 大型</th> <th>③ 有視界 小型</th> <th>④ 軍機一 飛行中</th> <th>⑤ 軍機一 往復時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度 <math>T_0</math></td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s) <math>t</math></td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> <td>4,900</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(<math>W/m^2/K</math>) <math>h</math></td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(<math>kg/m^3</math>) <math>\rho</math></td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(<math>J/kg/K</math>) <math>C_p</math></td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m) <math>X</math></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの 熱容量(<math>J/m^2/K</math>) <math>C_w</math></td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(<math>^{\circ}C</math>) <math>T</math></td> <td>41</td> <td>52</td> <td>87</td> <td>217</td> <td>358</td> </tr> <tr> <td>許容温度(<math>^{\circ}C</math>)</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典：空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)                  注2) 出典：日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p>	項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時	初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40	燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900	熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	壁厚み(m) $X$						壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820	入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	87	217	358	許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450	<p>添説建9-17表 各航空機落下による対象建築物外側騒音・シヤック（<input type="text"/>厚み）の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>① 民間一 離着陸</th> <th>② 有視界 大型</th> <th>③ 有視界 小型</th> <th>④ 軍機一 飛行中</th> <th>⑤ 軍機一 往復時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度 <math>T_0</math></td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s) <math>t</math></td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> <td>4,900</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(<math>W/m^2/K</math>) <math>h</math></td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(<math>kg/m^3</math>) <math>\rho</math></td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(<math>J/kg/K</math>) <math>C_p</math></td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m) <math>X</math></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの 熱容量(<math>J/m^2/K</math>) <math>C_w</math></td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(<math>^{\circ}C</math>) <math>T</math></td> <td>41</td> <td>52</td> <td>87</td> <td>217</td> <td>358</td> </tr> <tr> <td>許容温度(<math>^{\circ}C</math>)</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典：空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)                  注2) 出典：日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p>	項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時	初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40	燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900	熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	壁厚み(m) $X$						壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820	入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	87	217	358	許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450	<p>記載の適正化</p>
項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時																																																																																																																					
初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40																																																																																																																					
燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900																																																																																																																					
熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2																																																																																																																					
壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2																																																																																																																					
壁厚み(m) $X$																																																																																																																										
壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820																																																																																																																					
入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	87	217	358																																																																																																																					
許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450																																																																																																																					
項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時																																																																																																																					
初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40																																																																																																																					
燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900																																																																																																																					
熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2																																																																																																																					
壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2																																																																																																																					
壁厚み(m) $X$																																																																																																																										
壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820																																																																																																																					
入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	87	217	358																																																																																																																					
許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450																																																																																																																					
<p>添説建9-16表 各航空機落下による対象建築物外側騒音・シヤック（<input type="text"/>厚み）の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>① 民間一 離着陸</th> <th>② 有視界 大型</th> <th>③ 有視界 小型</th> <th>④ 軍機一 飛行中</th> <th>⑤ 軍機一 往復時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度 <math>T_0</math></td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s) <math>t</math></td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> <td>4,900</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(<math>W/m^2/K</math>) <math>h</math></td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(<math>kg/m^3</math>) <math>\rho</math></td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(<math>J/kg/K</math>) <math>C_p</math></td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m) <math>X</math></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの 熱容量(<math>J/m^2/K</math>) <math>C_w</math></td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(<math>^{\circ}C</math>) <math>T</math></td> <td>41</td> <td>52</td> <td>88</td> <td>217</td> <td>358</td> </tr> <tr> <td>許容温度(<math>^{\circ}C</math>)</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典：空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)                  注2) 出典：日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p>	項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時	初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40	燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900	熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	壁厚み(m) $X$						壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820	入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	88	217	358	許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450	<p>添説建9-17表 各航空機落下による対象建築物外側騒音・シヤック（<input type="text"/>厚み）の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>① 民間一 離着陸</th> <th>② 有視界 大型</th> <th>③ 有視界 小型</th> <th>④ 軍機一 飛行中</th> <th>⑤ 軍機一 往復時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度 <math>T_0</math></td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s) <math>t</math></td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> <td>4,900</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(<math>W/m^2/K</math>) <math>h</math></td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(<math>kg/m^3</math>) <math>\rho</math></td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(<math>J/kg/K</math>) <math>C_p</math></td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m) <math>X</math></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの 熱容量(<math>J/m^2/K</math>) <math>C_w</math></td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(<math>^{\circ}C</math>) <math>T</math></td> <td>41</td> <td>52</td> <td>88</td> <td>217</td> <td>358</td> </tr> <tr> <td>許容温度(<math>^{\circ}C</math>)</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典：空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)                  注2) 出典：日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p>	項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時	初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40	燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900	熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	壁厚み(m) $X$						壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820	入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	88	217	358	許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450	<p>変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。</p>
項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時																																																																																																																					
初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40																																																																																																																					
燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900																																																																																																																					
熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2																																																																																																																					
壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2																																																																																																																					
壁厚み(m) $X$																																																																																																																										
壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820																																																																																																																					
入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	88	217	358																																																																																																																					
許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450																																																																																																																					
項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時																																																																																																																					
初期温度 $T_0$	40	40	40	40	40																																																																																																																					
燃焼継続時間(s) $t$	5,000	6,400	1,800	5,700	4,900																																																																																																																					
熱伝達率( $W/m^2/K$ ) $h$	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度( $kg/m^3$ ) $\rho$	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2																																																																																																																					
壁の比熱( $J/kg/K$ ) $C_p$	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2																																																																																																																					
壁厚み(m) $X$																																																																																																																										
壁の面積あたりの 熱容量( $J/m^2/K$ ) $C_w$	5,820	5,820	5,820	5,820	5,820																																																																																																																					
入熱後の温度( $^{\circ}C$ ) $T$	41	52	88	217	358																																																																																																																					
許容温度( $^{\circ}C$ )	<450	<450	<450	<450	<450																																																																																																																					

変更前	変更後	変更理由																																																																																																
<p>6. 組立工場に対する航空機墜落下による火災影響評価結果 組立工場の航空機墜落下火災評価の評価対象範囲を添説建9-3図に示す。 事業許可では、評価対象の標的面積は、安全側に標的面積を大きくするために15通りまでを範囲とし、評価対象の壁は15通りの壁を評価していた。但し、建物の独立性は14a通りに新設する壁で確保していた。 本申請では、組立工場の航空機墜落下火災評価は事業許可のとおり、評価対象の標的面積を15通りまでとし、評価対象の壁は、14a通りに独立性を確保する耐火壁（コンクリート：<input type="text"/>厚み）及び鉄筋・シャッタ（<input type="text"/>厚み）、ダンパ（<input type="text"/>厚み）がある。壁については安全側に壁厚みが薄く15通りの壁（コンクリート：<input type="text"/>厚み）を評価対象とした。</p> <p>6.1 組立工場の輻射熱（輻射強度） 組立工場の外壁仕様を添説建9-3図に、また、各航空機の輻射強度の算出結果を添説建9-18表に示す。</p> <table border="1" data-bbox="694 1339 989 1960"> <caption>添説建9-18表 各航空機の輻射強度</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>① 民間一 離着陸</th> <th>② 有視界 大型</th> <th>③ 有視界 小型</th> <th>④ 軍機一 飛行中</th> <th>⑤ 軍機一 往復時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>航空機</td> <td>B737-800</td> <td>B747-400</td> <td>D6228</td> <td>KC767</td> <td>F15</td> </tr> <tr> <td>輻射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</td> <td>R<sub>t</sub> 50 注1</td> <td>50 注1</td> <td>50 注1</td> <td>58 注1</td> <td>58 注1</td> </tr> <tr> <td>10<sup>2</sup>となる面積 (m<sup>2</sup>)</td> <td>S 2,100,000</td> <td>500,000</td> <td>14,000</td> <td>53,000</td> <td>18,000</td> </tr> <tr> <td>離隔距離 (m)</td> <td>L 770</td> <td>330</td> <td>33</td> <td>65</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>燃焼半径 (m)</td> <td>R 5.9</td> <td>15</td> <td>2.9</td> <td>11</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>形態係数 Φ</td> <td>1.1×10<sup>-4</sup></td> <td>4.0×10<sup>-3</sup></td> <td>1.5×10<sup>-2</sup></td> <td>5.2×10<sup>-2</sup></td> <td>9.2×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>輻射強度 (W/m<sup>2</sup>)</td> <td>E 5.5</td> <td>200</td> <td>800</td> <td>3,000</td> <td>5,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典：NIREG1805</p>	項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時	航空機	B737-800	B747-400	D6228	KC767	F15	輻射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	R <sub>t</sub> 50 注1	50 注1	50 注1	58 注1	58 注1	10 <sup>2</sup> となる面積 (m <sup>2</sup> )	S 2,100,000	500,000	14,000	53,000	18,000	離隔距離 (m)	L 770	330	33	65	16	燃焼半径 (m)	R 5.9	15	2.9	11	3.8	形態係数 Φ	1.1×10 <sup>-4</sup>	4.0×10 <sup>-3</sup>	1.5×10 <sup>-2</sup>	5.2×10 <sup>-2</sup>	9.2×10 <sup>-2</sup>	輻射強度 (W/m <sup>2</sup> )	E 5.5	200	800	3,000	5,400	<p>6. 組立工場に対する航空機墜落下による火災影響評価結果 組立工場の航空機墜落下火災評価の評価対象範囲を添説建9-3図に示す。 事業許可では、評価対象の標的面積は、安全側に標的面積を大きくするために15通りまでを範囲とし、評価対象の壁は15通りの壁を評価していた。但し、建物の独立性は14a通りに新設する壁で確保していた。 本申請では、組立工場の航空機墜落下火災評価は事業許可のとおり、評価対象の標的面積を15通りまでとし、評価対象の壁は、14a通りに独立性を確保する耐火壁（コンクリート：<input type="text"/>厚み）及び鉄筋・シャッタ（<input type="text"/>厚み）、ダンパ（<input type="text"/>厚み）がある。壁については安全側に壁厚みが薄く15通りの壁（コンクリート：<input type="text"/>厚み）を評価対象とした。</p> <p>6.1 組立工場の輻射熱（輻射強度） 組立工場の外壁仕様を添説建9-3図に、また、各航空機の輻射強度の算出結果を添説建9-18表に示す。</p> <table border="1" data-bbox="694 526 989 1146"> <caption>添説建9-18表 各航空機の輻射強度</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>① 民間一 離着陸</th> <th>② 有視界 大型</th> <th>③ 有視界 小型</th> <th>④ 軍機一 飛行中</th> <th>⑤ 軍機一 往復時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>航空機</td> <td>B737-800</td> <td>B747-400</td> <td>D6228</td> <td>KC767</td> <td>F15</td> </tr> <tr> <td>輻射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</td> <td>R<sub>t</sub> 50 注1</td> <td>50 注1</td> <td>50 注1</td> <td>58 注1</td> <td>58 注1</td> </tr> <tr> <td>10<sup>2</sup>となる面積 (m<sup>2</sup>)</td> <td>S 2,100,000</td> <td>500,000</td> <td>14,000</td> <td>53,000</td> <td>18,000</td> </tr> <tr> <td>離隔距離 (m)</td> <td>L 770</td> <td>330</td> <td>33</td> <td>65</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>燃焼半径 (m)</td> <td>R 5.9</td> <td>15</td> <td>2.9</td> <td>11</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>形態係数 Φ</td> <td>1.1×10<sup>-4</sup></td> <td>4.0×10<sup>-3</sup></td> <td>1.5×10<sup>-2</sup></td> <td>5.2×10<sup>-2</sup></td> <td>9.2×10<sup>-2</sup></td> </tr> <tr> <td>輻射強度 (W/m<sup>2</sup>)</td> <td>E 5.5</td> <td>200</td> <td>800</td> <td>3,000</td> <td>5,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典：NIREG1805</p>	項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時	航空機	B737-800	B747-400	D6228	KC767	F15	輻射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	R <sub>t</sub> 50 注1	50 注1	50 注1	58 注1	58 注1	10 <sup>2</sup> となる面積 (m <sup>2</sup> )	S 2,100,000	500,000	14,000	53,000	18,000	離隔距離 (m)	L 770	330	33	65	16	燃焼半径 (m)	R 5.9	15	2.9	11	3.8	形態係数 Φ	1.1×10 <sup>-4</sup>	4.0×10 <sup>-3</sup>	1.5×10 <sup>-2</sup>	5.2×10 <sup>-2</sup>	9.2×10 <sup>-2</sup>	輻射強度 (W/m <sup>2</sup> )	E 5.5	200	800	3,000	5,400	<p>記載の適正化</p>
項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時																																																																																													
航空機	B737-800	B747-400	D6228	KC767	F15																																																																																													
輻射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	R <sub>t</sub> 50 注1	50 注1	50 注1	58 注1	58 注1																																																																																													
10 <sup>2</sup> となる面積 (m <sup>2</sup> )	S 2,100,000	500,000	14,000	53,000	18,000																																																																																													
離隔距離 (m)	L 770	330	33	65	16																																																																																													
燃焼半径 (m)	R 5.9	15	2.9	11	3.8																																																																																													
形態係数 Φ	1.1×10 <sup>-4</sup>	4.0×10 <sup>-3</sup>	1.5×10 <sup>-2</sup>	5.2×10 <sup>-2</sup>	9.2×10 <sup>-2</sup>																																																																																													
輻射強度 (W/m <sup>2</sup> )	E 5.5	200	800	3,000	5,400																																																																																													
項目	① 民間一 離着陸	② 有視界 大型	③ 有視界 小型	④ 軍機一 飛行中	⑤ 軍機一 往復時																																																																																													
航空機	B737-800	B747-400	D6228	KC767	F15																																																																																													
輻射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	R <sub>t</sub> 50 注1	50 注1	50 注1	58 注1	58 注1																																																																																													
10 <sup>2</sup> となる面積 (m <sup>2</sup> )	S 2,100,000	500,000	14,000	53,000	18,000																																																																																													
離隔距離 (m)	L 770	330	33	65	16																																																																																													
燃焼半径 (m)	R 5.9	15	2.9	11	3.8																																																																																													
形態係数 Φ	1.1×10 <sup>-4</sup>	4.0×10 <sup>-3</sup>	1.5×10 <sup>-2</sup>	5.2×10 <sup>-2</sup>	9.2×10 <sup>-2</sup>																																																																																													
輻射強度 (W/m <sup>2</sup> )	E 5.5	200	800	3,000	5,400																																																																																													

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。



変更前	変更後	変更理由																																																																																																																								
<p>添設建9-21表 各航空機墜下による対象建物外側鉄扉 注3・シャッタ 注4                  注1: [ ] 厚み)・ダンパ [ ] 厚み)の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度</td> <td>T<sub>0</sub></td> <td>40</td> <td>有視界 大型</td> <td>有視界 小型</td> <td>軍機- 飛行中</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s)</td> <td>t</td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(W/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>h</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(kg/m<sup>3</sup>)</td> <td>ρ</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(J/kg/K)</td> <td>C<sub>p</sub></td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m)</td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの熱容量(J/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>C<sub>v</sub></td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(°C)</td> <td>T</td> <td>41</td> <td>52</td> <td>87</td> <td>217</td> </tr> <tr> <td>許容温度(°C)</td> <td></td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典: 空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)</p> <p>注2) 出典: 日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p> <p>注3) SD-17 (図イ建-9参照) は次回以降申請する。</p> <p>注4) 14a通りの鉄扉・シャッタ [ ] 厚み) を含む。</p>	項目	①	②	③	④	⑤	初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中	燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700	熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	壁厚み(m)	X					壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	5,820	5,820	5,820	5,820	入熱後の温度(°C)	T	41	52	87	217	許容温度(°C)		<450	<450	<450	<450	<p>添設建9-21表 各航空機墜下による対象建物外側鉄扉 注3・シャッタ 注4                  注1: [ ] 厚み)・ダンパ [ ] 厚み)の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度</td> <td>T<sub>0</sub></td> <td>40</td> <td>有視界 大型</td> <td>有視界 小型</td> <td>軍機- 飛行中</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s)</td> <td>t</td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(W/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>h</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(kg/m<sup>3</sup>)</td> <td>ρ</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> <td>7,830 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(J/kg/K)</td> <td>C<sub>p</sub></td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> <td>465 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m)</td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの熱容量(J/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>C<sub>v</sub></td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> <td>5,820</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(°C)</td> <td>T</td> <td>41</td> <td>52</td> <td>87</td> <td>217</td> </tr> <tr> <td>許容温度(°C)</td> <td></td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> <td>&lt;450</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典: 空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)</p> <p>注2) 出典: 日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p> <p>注3) SD-17 (図イ建-9参照) は次回以降申請する。</p> <p>注4) 14a通りの鉄扉・シャッタ [ ] 厚み) を含む。</p>	項目	①	②	③	④	⑤	初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中	燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700	熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2	壁厚み(m)	X					壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	5,820	5,820	5,820	5,820	入熱後の温度(°C)	T	41	52	87	217	許容温度(°C)		<450	<450	<450	<450	<p>記載の適正化</p>
項目	①	②	③	④	⑤																																																																																																																					
初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中																																																																																																																					
燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700																																																																																																																					
熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2																																																																																																																					
壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2																																																																																																																					
壁厚み(m)	X																																																																																																																									
壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	5,820	5,820	5,820	5,820																																																																																																																					
入熱後の温度(°C)	T	41	52	87	217																																																																																																																					
許容温度(°C)		<450	<450	<450	<450																																																																																																																					
項目	①	②	③	④	⑤																																																																																																																					
初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中																																																																																																																					
燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700																																																																																																																					
熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2	7,830 注2																																																																																																																					
壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	465 注2	465 注2	465 注2	465 注2																																																																																																																					
壁厚み(m)	X																																																																																																																									
壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	5,820	5,820	5,820	5,820																																																																																																																					
入熱後の温度(°C)	T	41	52	87	217																																																																																																																					
許容温度(°C)		<450	<450	<450	<450																																																																																																																					
<p>添設建9-22表 各航空機墜下による対象建物外側エキスパンションジョイント追加カバー (ステレンレス鋼: [ ] 厚み) の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度</td> <td>T<sub>0</sub></td> <td>40</td> <td>有視界 大型</td> <td>有視界 小型</td> <td>軍機- 飛行中</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s)</td> <td>t</td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(W/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>h</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(kg/m<sup>3</sup>)</td> <td>ρ</td> <td>7,820 注2</td> <td>7,820 注2</td> <td>7,820 注2</td> <td>7,820 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(J/kg/K)</td> <td>C<sub>p</sub></td> <td>460 注2</td> <td>460 注2</td> <td>460 注2</td> <td>460 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m)</td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの熱容量(J/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>C<sub>v</sub></td> <td>1,070</td> <td>1,070</td> <td>1,070</td> <td>1,070</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(°C)</td> <td>T</td> <td>41</td> <td>52</td> <td>88</td> <td>217</td> </tr> <tr> <td>許容温度(°C)</td> <td></td> <td>&lt;700</td> <td>&lt;700</td> <td>&lt;700</td> <td>&lt;700</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典: 空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)</p> <p>注2) 出典: 日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p>	項目	①	②	③	④	⑤	初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中	燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700	熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2	壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	460 注2	460 注2	460 注2	460 注2	壁厚み(m)	X					壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	1,070	1,070	1,070	1,070	入熱後の温度(°C)	T	41	52	88	217	許容温度(°C)		<700	<700	<700	<700	<p>添設建9-22表 各航空機墜下による対象建物外側エキスパンションジョイント追加カバー (ステレンレス鋼: [ ] 厚み) の温度上昇</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期温度</td> <td>T<sub>0</sub></td> <td>40</td> <td>有視界 大型</td> <td>有視界 小型</td> <td>軍機- 飛行中</td> </tr> <tr> <td>燃焼継続時間(s)</td> <td>t</td> <td>5,000</td> <td>6,400</td> <td>1,800</td> <td>5,700</td> </tr> <tr> <td>熱伝達率(W/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>h</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> <td>17 注1</td> </tr> <tr> <td>壁の密度(kg/m<sup>3</sup>)</td> <td>ρ</td> <td>7,820 注2</td> <td>7,820 注2</td> <td>7,820 注2</td> <td>7,820 注2</td> </tr> <tr> <td>壁の比熱(J/kg/K)</td> <td>C<sub>p</sub></td> <td>460 注2</td> <td>460 注2</td> <td>460 注2</td> <td>460 注2</td> </tr> <tr> <td>壁厚み(m)</td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の面積あたりの熱容量(J/m<sup>2</sup>/K)</td> <td>C<sub>v</sub></td> <td>1,070</td> <td>1,070</td> <td>1,070</td> <td>1,070</td> </tr> <tr> <td>入熱後の温度(°C)</td> <td>T</td> <td>41</td> <td>52</td> <td>88</td> <td>217</td> </tr> <tr> <td>許容温度(°C)</td> <td></td> <td>&lt;700</td> <td>&lt;700</td> <td>&lt;700</td> <td>&lt;700</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 出典: 空気調和・衛生工学会「空気調和・衛生工学便覧」(平成19年12月25日発行)</p> <p>注2) 出典: 日本機械学会「機械工学便覧」(平成元年9月30日発行)</p>	項目	①	②	③	④	⑤	初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中	燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700	熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1	壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2	壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	460 注2	460 注2	460 注2	460 注2	壁厚み(m)	X					壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	1,070	1,070	1,070	1,070	入熱後の温度(°C)	T	41	52	88	217	許容温度(°C)		<700	<700	<700	<700	<p>変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。</p>
項目	①	②	③	④	⑤																																																																																																																					
初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中																																																																																																																					
燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700																																																																																																																					
熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2																																																																																																																					
壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	460 注2	460 注2	460 注2	460 注2																																																																																																																					
壁厚み(m)	X																																																																																																																									
壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	1,070	1,070	1,070	1,070																																																																																																																					
入熱後の温度(°C)	T	41	52	88	217																																																																																																																					
許容温度(°C)		<700	<700	<700	<700																																																																																																																					
項目	①	②	③	④	⑤																																																																																																																					
初期温度	T <sub>0</sub>	40	有視界 大型	有視界 小型	軍機- 飛行中																																																																																																																					
燃焼継続時間(s)	t	5,000	6,400	1,800	5,700																																																																																																																					
熱伝達率(W/m <sup>2</sup> /K)	h	17 注1	17 注1	17 注1	17 注1																																																																																																																					
壁の密度(kg/m <sup>3</sup> )	ρ	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2	7,820 注2																																																																																																																					
壁の比熱(J/kg/K)	C <sub>p</sub>	460 注2	460 注2	460 注2	460 注2																																																																																																																					
壁厚み(m)	X																																																																																																																									
壁の面積あたりの熱容量(J/m <sup>2</sup> /K)	C <sub>v</sub>	1,070	1,070	1,070	1,070																																																																																																																					
入熱後の温度(°C)	T	41	52	88	217																																																																																																																					
許容温度(°C)		<700	<700	<700	<700																																																																																																																					



## 添付 2

### 6 次申請：軽微変更後の新旧比較



変更理由  
記載の適正化

表 T-建-3-2 建物の各部位の仕様表 (工情報転換工種) (7/7)

※以下は同一申請書の異なる区分の仕様の記載を示す。(一部は異なる区分の仕様の記載を示す)

区分	部位	仕様		仕様	仕様
		仕様	仕様		
区分 1 構造工種 転換工種	構造	区分 1 構造	基礎	基礎	基礎
			1階	1階	1階
			2階	2階	2階
			3階	3階	3階
			4階	4階	4階
			5階	5階	5階
			6階	6階	6階
			7階	7階	7階
			8階	8階	8階
			9階	9階	9階
			10階	10階	10階
			11階	11階	11階
区分 2 電気設備工種	電気設備	電気設備	電気設備	電気設備	

表 T-建-3-2 建物の各部位の仕様表 (工情報転換工種) (7/7)

※以下は同一申請書の異なる区分の仕様の記載を示す。(一部は異なる区分の仕様の記載を示す)

区分	部位	仕様		仕様	仕様
		仕様	仕様		
区分 1 構造工種 転換工種	構造	区分 1 構造	基礎	基礎	基礎
			1階	1階	1階
			2階	2階	2階
			3階	3階	3階
			4階	4階	4階
			5階	5階	5階
			6階	6階	6階
			7階	7階	7階
			8階	8階	8階
			9階	9階	9階
			10階	10階	10階
			11階	11階	11階
区分 2 電気設備工種	電気設備	電気設備	電気設備	電気設備	

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。



変更後	変更理由																														
<p>表ト建-2-1 付属建物第1 廃棄物処理所 主要な構造材の仕様表(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様 (工事番号及び工事名称)</th> <th>対象箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm、D22 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他 基礎的および 預じり性能 向上</td> <td>(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材：<input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他</td> <td>(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm、D22 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3	その他 基礎的および 預じり性能 向上	(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他	(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6	<p>表ト建-2-1 付属建物第1 廃棄物処理所 主要な構造材の仕様表(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様 (工事番号及び工事名称)</th> <th>対象箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他 基礎的および 預じり性能 向上</td> <td>(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材：<input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他</td> <td>(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3	その他 基礎的および 預じり性能 向上	(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他	(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6						
項目	仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所																													
耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm、D22 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2																													
	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3																												
		その他 基礎的および 預じり性能 向上	(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他		(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6																										
			項目		仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所																									
			耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様		(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2																									
					耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強		(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3																							
						その他 基礎的および 預じり性能 向上		(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他	(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6																						
								<p>表ト建-2-1 付属建物第1 廃棄物処理所 主要な構造材の仕様表(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様 (工事番号及び工事名称)</th> <th>対象箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他 基礎的および 預じり性能 向上</td> <td>(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材：<input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他</td> <td>(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6</td> </tr> </tbody> </table>	項目		仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様		(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3		その他 基礎的および 預じり性能 向上	(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他		(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6	<p>表ト建-2-1 付属建物第1 廃棄物処理所 主要な構造材の仕様表(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様 (工事番号及び工事名称)</th> <th>対象箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</td> <td>(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強</td> <td>(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他 基礎的および 預じり性能 向上</td> <td>(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材：<input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他</td> <td>(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所	耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様	(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2
				項目			仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所																							
				耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様			(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2																							
耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様							(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3																							
	その他 基礎的および 預じり性能 向上						(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他	(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6																							
		項目					仕様 (工事番号及び工事名称)	対象箇所																							
		耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様					(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-9~12 6-b. 図ト建-1-9, 11 6-c. 図ト建-1-9~14, 16 6-d. 図ト建-1-7, 9, 11 6-e. 図ト建-1-8, 15 6-f. 図ト建-1-7, 10 6-g. 図ト建-1-7~10, 12, 16 6-h. 図ト建-1-6, 9~12, 16 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建2																							
			耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様				(1) 本体 柱脚補強 仕舞部増打ち補強：鉄筋コンクリート 鉄筋：D13 あと施工アングラー：D16 鋼板：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 6-b. 鉄骨ブレース新設 6-c. 鉄骨ブレース交換補強 6-d. 鉄骨ブレース交換補強 6-e. 屋根前アレース新設 鉄骨： 6-f. 柱補強 鉄骨： 6-g. 柱梁接合部補強	(1) 本体 6-a. 図ト建-1-2, 4, 6~14, 15 6-b. 図ト建-1-6, 9~12 6-c. 図ト建-1-1, 4 6-m. 図イ建-1-6, 7, 図ト建-1-7~1 図ト建-1-1, 4 (参考) 図イ建-1-2(1/3)~(3/3) 部付説明書-建3																							
					その他 基礎的および 預じり性能 向上		(1) 本体 6-1. 間仕切り壁更新 下地材： <input type="text"/> 他 石膏ボード：板厚 <input type="text"/> 他	(1) 本体 6-1. 図ト建-1-1 (参考) 図イ建-1-2(1/3) 部付説明書-建6																							

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。



変更前				変更後				変更理由
表ト建-2-1 付属建物第1階躯体処理所 主要な構造物の仕様表(1/4)								記載の適正化
工事番号及び工事名称	区分	番号*	部材寸法	材料	工事番号及び工事名称	区分	番号*	
6-a. 柱脚補強	新設	—			6-a. 柱脚補強	新設	—	
6-b. 鉄骨ブレース新設	新設	NB1			6-b. 鉄骨ブレース新設	新設	NB1	
6-c. 鉄骨ブレース交換補強	新設	NB1A			6-c. 鉄骨ブレース交換補強	新設	NB1A	
6-d. 鉄骨梁交換補強	新設	NB-1			6-d. 鉄骨梁交換補強	新設	NB-1	
		NB-2					NB-2	
		NB-3					NB-3	
		NB-4					NB-4	
		NB-5					NB-5	
		NB-6					NB-6	
		NB-11					NB-11	
		NB-12					NB-12	
6-e. 屋根面ブレース追加	既設	—			6-e. 屋根面ブレース追加	既設	—	
		NBFP1					NBFP1	
6-f. 柱補強	既設	—			6-f. 柱補強	既設	—	
		NBCT					NBCT	
6-g. 柱梁仕口部補強	新設	—			6-g. 柱梁仕口部補強	新設	—	
6-h. 柱脚部部接補強	新設	—			6-h. 柱脚部部接補強	新設	—	
6-i. 開口切り壁更新	新設	—			6-i. 開口切り壁更新	新設	—	
6-j. 外壁サイディング補強	新設	—			6-j. 外壁サイディング補強	新設	—	
		NGIR					NGIR	
		NP1					NP1	
		NP2					NP2	
		NP3					NP3	
		NP4					NP4	
		NP5					NP5	
		MG1					MG1	
		MG2					MG2	
		MG3					MG3	
		MG4					MG4	
		MG5					MG5	
		MG1					MG1	
6-k. 鋼板新設	新設	—			6-k. 鋼板新設	新設	—	
6-l. シヤッタ新設	新設	—			6-l. シヤッタ新設	新設	—	
6-m. 鉄床補強	新設	—			6-m. 鉄床補強	新設	—	

\*：図面の番号を示す  
(参考)  
添付説明書-建2  
添付説明書-建3

1671

1671

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前	変更後	変更理由																
<p>表ト建-2-4 付属建物第3座薬物倉庫 主要な構造材の仕様表(1/2)</p> <p>(1)付属建物第3座薬物倉庫                  ①第3座薬物倉庫                  構造：鉄骨造                  壁：鉄骨+サイディング                  屋根：折板                  基礎：杭基礎                  支持方法：十分な支持性能を有する支持地盤に杭基礎で支持                  地盤：N値30以上の砂礫層</p> <p>②第3座薬物倉庫床                  構造：土間コンクリート造                  支持方法：十分な支持性能を有する支持地盤で直接支持                  地盤：長期許容応力度 90kN/㎡以上、短期許容応力度 100kN/㎡以上の地味近くのローム層</p> <p>(1)付属建物第3座薬物倉庫                  ①鉄筋コンクリート                  ・鉄筋：JIS G3112に定める鉄筋                  ・コンクリート：JIS A5308に定めるコンクリート（密度：2.05g/cm<sup>3</sup>以上）                  既設基礎梁、既存床：設計基準強度 20.6N/mm<sup>2</sup>                  ②鉄骨：JIS G3192に定める構形鋼、H形鋼                  JIS G3194に定める平鋼                  JIS G3466に定める角形鋼管                  JIS G3350に定める構形鋼、Z形鋼                  ③外壁：上記の鉄骨                  サイディング：JIS G3322に定める                  ④屋根：JIS G3322に定める                  ⑤床：土間コンクリート                  ⑥杭：JIS A5372に定める遠心力アプレストレストコンクリート杭                  杭長さ：□mm                  杭径寸法：□mm                  杭先端深度：設計GLから-7.7m</p> <p>(参考)                  添付説明書-建2                  添付説明書-建3</p>	<p>表ト建-2-4 付属建物第3座薬物倉庫 主要な構造材の仕様表(1/2)</p> <p>(1)付属建物第3座薬物倉庫                  ①第3座薬物倉庫                  構造：鉄骨造                  壁：鉄骨+サイディング                  屋根：折板                  基礎：杭基礎                  支持方法：十分な支持性能を有する支持地盤に杭基礎で支持                  地盤：N値30以上の砂礫層</p> <p>②第3座薬物倉庫床                  構造：土間コンクリート造                  支持方法：十分な支持性能を有する支持地盤で直接支持                  地盤：長期許容応力度 50kN/㎡以上、短期許容応力度 100kN/㎡以上の地味近くのローム層</p> <p>(1)付属建物第3座薬物倉庫                  ①鉄筋コンクリート                  ・鉄筋：JIS G3112に定める鉄筋                  ・コンクリート：JIS A5308に定めるコンクリート（密度：2.05g/cm<sup>3</sup>以上）                  既設基礎梁、既存床：設計基準強度 20.6N/mm<sup>2</sup>                  ②鉄骨：JIS G3192に定める構形鋼、H形鋼                  JIS G3194に定める平鋼                  JIS G3466に定める角形鋼管                  JIS G3350に定める構形鋼、Z形鋼                  ③外壁：上記の鉄骨                  サイディング：JIS G3322に定める                  ④屋根：JIS G3322に定める                  ⑤床：土間コンクリート                  ⑥杭：JIS A5372に定める遠心力アプレストレストコンクリート杭                  杭長さ：□mm                  杭径寸法：□mm                  杭先端深度：設計GLから-7.7m</p> <p>(参考)                  添付説明書-建2                  添付説明書-建3</p>	<p>記載の適正化</p>																
<p>耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様（工事番号及び工事名称）</th> <th>対象図面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">耐力性能向上</td> <td>(1)本体 9-a. 外壁更新 外壁：サイディング 外壁下地材：□mm 鉄骨：□mm 吹付耐火被覆材：ロックワール 炭比重0.3以上 加工厚さ□mm</td> <td>(1)本体 9-a. 図ト建-4-6, 8, 11~12, 14~17 9-b. 図ト建-4-4, 6, 8 9-c. 図ト建-4-4, 6, 8 9-d. 図ト建-4-7~8, 13</td> </tr> <tr> <td>9-b. 鉄筋補強 鉄筋補強材 平鋼 9-c. シヤック交換 鋼材：板厚□mm （鋼材は、シヤック鋼材以外のレールの部材、板厚は、シヤックのシヤック部を主） 9-d. 折板張替え補強 折板：板厚□mm 鉄骨：□mm</td> <td>(参考) 図ト建-4-1(1/2)~ (2/2) 添付説明書-建2 添付説明書-建3</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様（工事番号及び工事名称）	対象図面	耐力性能向上	(1)本体 9-a. 外壁更新 外壁：サイディング 外壁下地材：□mm 鉄骨：□mm 吹付耐火被覆材：ロックワール 炭比重0.3以上 加工厚さ□mm	(1)本体 9-a. 図ト建-4-6, 8, 11~12, 14~17 9-b. 図ト建-4-4, 6, 8 9-c. 図ト建-4-4, 6, 8 9-d. 図ト建-4-7~8, 13	9-b. 鉄筋補強 鉄筋補強材 平鋼 9-c. シヤック交換 鋼材：板厚□mm （鋼材は、シヤック鋼材以外のレールの部材、板厚は、シヤックのシヤック部を主） 9-d. 折板張替え補強 折板：板厚□mm 鉄骨：□mm	(参考) 図ト建-4-1(1/2)~ (2/2) 添付説明書-建2 添付説明書-建3	<p>耐震性能及び耐電圧性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様（工事番号及び工事名称）</th> <th>対象図面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">耐力性能向上</td> <td>(1)本体 9-a. 外壁更新 外壁：サイディング 外壁下地材：□mm 鉄骨：□mm 吹付耐火被覆材：ロックワール 炭比重0.3以上 加工厚さ□mm</td> <td>(1)本体 9-a. 図ト建-4-6, 8, 11~12, 14~17 9-b. 図ト建-4-4, 6, 8 9-c. 図ト建-4-4, 6, 8 9-d. 図ト建-4-7~8, 13</td> </tr> <tr> <td>9-b. 鉄筋補強 鉄筋補強材 平鋼 9-c. シヤック交換 鋼材：板厚□mm （鋼材は、シヤック鋼材以外のレールの部材、板厚は、シヤックのシヤック部を主） 9-d. 折板張替え補強 折板：板厚□mm 鉄骨：□mm</td> <td>(参考) 図ト建-4-1(1/2)~ (2/2) 添付説明書-建2 添付説明書-建3</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様（工事番号及び工事名称）	対象図面	耐力性能向上	(1)本体 9-a. 外壁更新 外壁：サイディング 外壁下地材：□mm 鉄骨：□mm 吹付耐火被覆材：ロックワール 炭比重0.3以上 加工厚さ□mm	(1)本体 9-a. 図ト建-4-6, 8, 11~12, 14~17 9-b. 図ト建-4-4, 6, 8 9-c. 図ト建-4-4, 6, 8 9-d. 図ト建-4-7~8, 13	9-b. 鉄筋補強 鉄筋補強材 平鋼 9-c. シヤック交換 鋼材：板厚□mm （鋼材は、シヤック鋼材以外のレールの部材、板厚は、シヤックのシヤック部を主） 9-d. 折板張替え補強 折板：板厚□mm 鉄骨：□mm	(参考) 図ト建-4-1(1/2)~ (2/2) 添付説明書-建2 添付説明書-建3	<p>変更理由</p>
項目	仕様（工事番号及び工事名称）	対象図面																
耐力性能向上	(1)本体 9-a. 外壁更新 外壁：サイディング 外壁下地材：□mm 鉄骨：□mm 吹付耐火被覆材：ロックワール 炭比重0.3以上 加工厚さ□mm	(1)本体 9-a. 図ト建-4-6, 8, 11~12, 14~17 9-b. 図ト建-4-4, 6, 8 9-c. 図ト建-4-4, 6, 8 9-d. 図ト建-4-7~8, 13																
	9-b. 鉄筋補強 鉄筋補強材 平鋼 9-c. シヤック交換 鋼材：板厚□mm （鋼材は、シヤック鋼材以外のレールの部材、板厚は、シヤックのシヤック部を主） 9-d. 折板張替え補強 折板：板厚□mm 鉄骨：□mm	(参考) 図ト建-4-1(1/2)~ (2/2) 添付説明書-建2 添付説明書-建3																
項目	仕様（工事番号及び工事名称）	対象図面																
耐力性能向上	(1)本体 9-a. 外壁更新 外壁：サイディング 外壁下地材：□mm 鉄骨：□mm 吹付耐火被覆材：ロックワール 炭比重0.3以上 加工厚さ□mm	(1)本体 9-a. 図ト建-4-6, 8, 11~12, 14~17 9-b. 図ト建-4-4, 6, 8 9-c. 図ト建-4-4, 6, 8 9-d. 図ト建-4-7~8, 13																
	9-b. 鉄筋補強 鉄筋補強材 平鋼 9-c. シヤック交換 鋼材：板厚□mm （鋼材は、シヤック鋼材以外のレールの部材、板厚は、シヤックのシヤック部を主） 9-d. 折板張替え補強 折板：板厚□mm 鉄骨：□mm	(参考) 図ト建-4-1(1/2)~ (2/2) 添付説明書-建2 添付説明書-建3																

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前		変更後		変更理由																																																																																																																														
<p>表ト建-2-4 付属建物第3棟薬物倉庫 主要な構造材の仕様表(2/2)</p> <p>主要な部材寸法及び材質 工事番号及び工事名称 9-a. 外壁更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>番号*</th> <th>部材寸法</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">新設</td> <td>NG1R</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSCB1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>既設</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-b. 鉄筋補強</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-c. シヤッタ更新</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-d. 折板張替え補強</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新設</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>既設</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*：図面の番号を示す (参考) 添付説明書-建2 添付説明書-建3</p>		区分	番号*	部材寸法	材質	新設	NG1R			NSP1			NSP2			NSP3			NSP4			NSP5			NSB1			NSB2			NSB3			NSB4			NSCB1				既設	—			9-b. 鉄筋補強				9-c. シヤッタ更新				9-d. 折板張替え補強				新設	—			既設	—			<p>表ト建-2-4 付属建物第3棟薬物倉庫 主要な構造材の仕様表(2/2)</p> <p>主要な部材寸法及び材質 工事番号及び工事名称 9-a. 外壁更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>番号*</th> <th>部材寸法</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">新設</td> <td>NG1R</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSP5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSB4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NSCB1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>既設</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-b. 鉄筋補強</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-c. シヤッタ更新</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9-d. 折板張替え補強</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新設</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>既設</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*：図面の番号を示す (参考) 添付説明書-建2 添付説明書-建3</p>		区分	番号*	部材寸法	材質	新設	NG1R			NSP1			NSP2			NSP3			NSP4			NSP5			NSB1			NSB2			NSB3			NSB4			NSCB1				既設	—			9-b. 鉄筋補強				9-c. シヤッタ更新				9-d. 折板張替え補強				新設	—			既設	—			記載の適正化
区分	番号*	部材寸法	材質																																																																																																																															
新設	NG1R																																																																																																																																	
	NSP1																																																																																																																																	
	NSP2																																																																																																																																	
	NSP3																																																																																																																																	
	NSP4																																																																																																																																	
	NSP5																																																																																																																																	
	NSB1																																																																																																																																	
	NSB2																																																																																																																																	
	NSB3																																																																																																																																	
	NSB4																																																																																																																																	
NSCB1																																																																																																																																		
既設	—																																																																																																																																	
9-b. 鉄筋補強																																																																																																																																		
9-c. シヤッタ更新																																																																																																																																		
9-d. 折板張替え補強																																																																																																																																		
新設	—																																																																																																																																	
既設	—																																																																																																																																	
区分	番号*	部材寸法	材質																																																																																																																															
新設	NG1R																																																																																																																																	
	NSP1																																																																																																																																	
	NSP2																																																																																																																																	
	NSP3																																																																																																																																	
	NSP4																																																																																																																																	
	NSP5																																																																																																																																	
	NSB1																																																																																																																																	
	NSB2																																																																																																																																	
	NSB3																																																																																																																																	
	NSB4																																																																																																																																	
NSCB1																																																																																																																																		
既設	—																																																																																																																																	
9-b. 鉄筋補強																																																																																																																																		
9-c. シヤッタ更新																																																																																																																																		
9-d. 折板張替え補強																																																																																																																																		
新設	—																																																																																																																																	
既設	—																																																																																																																																	

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。